

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/05/01

ドル・ユーロ・円、主要3通貨に方向感はいにくい

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	ドル/円の動向も注視 予想レンジ: 102.00 ~ 110.00 円	2-3
ユーロ/ドル	➡	もみ合い継続か 予想レンジ: 1.2950 ~ 1.3550 ドル	4-5
ポンド/円	➡	MPCの政策が鍵に 予想レンジ: 126.00 ~ 135.00 円	6-7
ポンド/ドル	➡	英米の金融当局の姿勢を両睨みで 予想レンジ: 1.5800 ~ 1.6600 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	110.81円	111.12円	104.62円	105.65円



- ① 4日、財政懸念がくすぶるスペインの国債入札が不調に終わった事をきっかけにユーロ安が進行した。その後、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁が、定例理事会後の会見で「2012年のインフレ率は2%を上回る公算」と発言する一方、「景気見通しは下振れるリスクがある」「インフレ率は2013年に2%以下に低下になると見られている」「金融緩和の出口戦略に関する議論は現時点では時期尚早」などと発言した事を受けて、ユーロ圏の金融緩和長期化観測からユーロ売りが加速。ユーロ/円は107.90円まで値を下げた。
- ② 6日、イースター休暇入りのため薄商いの中、米3月雇用統計で非農業部門雇用者数が予想の半分程度の増加にとどまった事を受けて、ドル/円が急落すると、ユーロ/円も連れ安となり、106.55円まで1円以上の下落となった。
- ③ 10日、日銀金融政策決定会合が行われ金融政策の現状維持が発表された。一部に追加緩和観測があったため据え置き発表後に円買いが優勢となった。また、イースター休暇明けの欧州市場でスペイン国債が大きく上昇し、株価が下落するとユーロ売り・円買いに拍車がかかった。さらにNY市場でも、NYダウが200ドル超下落するとユーロ/円は105.49円まで値を下げた。
- ④ 16日、前週末13日にスペインの銀行によるECBからの借入れが3月に過去最高を記録した事が判明し、同国の金融システムへの懸念がくすぶる中、同国国債利回りが上昇するとユーロ/円は105円を割り込んで下落。さらに、NY市場で米長期金利が低下した事を受けてドル/円が下落すると、ユーロ/円は104.62円の安値を付けた。
- ⑤ 20日、独4月IFO景況指数が109.9と予想(109.5)を上回るとユーロ買いが優勢となった。さらにその後、この日行われるG20財務相・中央銀行総裁会議の声明草案として「国際通貨基金(IMF)の融資基盤を4000億ドル以上増加させる」などと伝えられると、欧州債務危機に対する懸念が和らぎユーロ/円は108.00円まで上昇した。
- ⑥ 23日、前週末に行われた仏大統領選挙1回目の投票で現職のサルコジ大統領の苦戦が伝わるとユーロ売りが優勢となった。さらに独4月PMI製造業が46.3と予想(49.0)を大きく下回った事やオランダのルッテ首相が、連立与党内で緊縮財政政策に合意できなかった事を理由に内閣総辞職を表明した事を受けてユーロ/円は106.32円まで下落した。
- ⑦ 27日、早朝に格付け会社S&Pがスペインの格下げを発表するとユーロ売りが強まった。日銀が5兆円規模の追加緩和を発表すると107円台に急伸する場面も見られたが、その後、白川日銀総裁が会見で「上向きのモメンタムを大事にしたいが、毎月緩和をやっていくということではない」などと発言し追加緩和観測が後退すると円の買戻しが強まり、ユーロ/円は106.16円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

4月のユーロ/円相場は104.62円～111.12円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.4%の下落（ユーロ安・円高）となった。序盤からスペインの財政懸念を背景にユーロ安が進行。国際通貨基金（IMF）の融資基盤強化などから、過度のリスク回避姿勢は後退したものの、終盤には、米追加緩和観測が再浮上する中、ドル/円の下落もあって再び105円台に下押すなど、軟調推移が目立った。

5月は、6日にフランスの大統領選挙とギリシャの総選挙が予定されている。フランスでは、現職のサルコジ大統領の苦戦が伝えられており、欧州連合（EU）新条約に基づく緊縮財政政策の見直し（緩和）を掲げるオランド氏が優勢となっている。今年1月に合意したはずの財政規律の強化に向けた取り組みが、ユーロ圏中核国のフランスで早くも頓挫するとの見方が強まれば、合意自体が骨抜きになるリスクが高まる。ギリシャについては、今年3月に決定した同国向け第2次金融支援の受け入れ条件として追加緊縮財政政策に署名した連立内閣の維持が焦点となる。現連立与党が過半数を維持できなければ、（国民に不人気な）緊縮策の見直しを公約に掲げる野党が連立に加わる事になり、2次支援そのものを見直さざるを得なくなるリスクがあるだろう。いずれにしても、選挙結果以上に新政権発足後の政策運営方針が注目されよう。

その他、4月のユーロ/円の下落については、ドル/円の下落による部分が大きかったと言える。（4月のユーロ/ドルは約0.8%の下落にとどまった）5月についても、4日の米4月雇用統計を軸に、追加緩和への思惑がドル/円相場を左右すると見られ、ユーロ/円を取引する上でも、これら米国の経済指標に注目しておきたい。（神田）

（予想レンジ：102.00～110.00円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

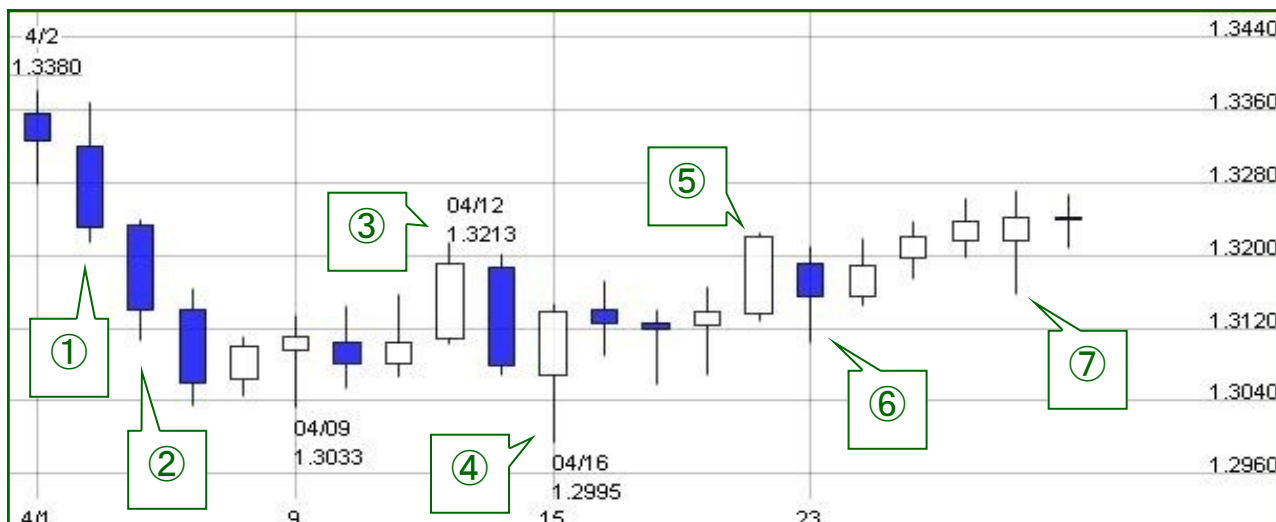
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/2(水)	4月独雇用統計	5/15(火)	5月独ZEW景況感調査
	3月ユーロ圏失業率	5/16(水)	4月ユーロ圏消費者物価指数
5/3(木)	欧州中銀金融政策発表		FOMC議事録(4月24・25日分)
5/4(金)	3月ユーロ圏小売売上高	5/22(火)	5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	4月米雇用統計	5/23(水)	4月日本通関ベース貿易収支
5/6(日)	ギリシャ総選挙		日銀金融政策決定会合
	仏大統領選挙	5/24(木)	5月独PMI製造業・速報
5/8(火)	3月独鉱工業生産		5月独IFO景況指数
5/11(金)	4月中国消費者物価指数		5月ユーロ圏PMI製造業・速報
5/15(火)	第1四半期ユーロ圏GDP・速報値		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3356ドル	1.3380ドル	1.2995ドル	1.3239ドル



①	3日、スペイン政府が「2012年の債務が対国内総生産(GDP)比で79.8%になる」と発表。前年の68.5%からの上昇が嫌気されてユーロ売りが強まった。さらにその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が公表され、「成長が減速しなければ追加緩和の必要はない」との見方が示された。これを受け、市場では追加金融緩和期待が後退してドル買いが強まるとユーロ/ドルは1.3213ドルまで急落した。
②	4日、財政懸念がくすぶるスペインの国債入札が不調に終わった事をきっかけにユーロ安が進行した。その後、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁が、定例理事会後の会見で「2012年のインフレ率は2%を上回る公算」と発言する一方、「景気見通しは下振れるリスクがある」「インフレ率は2013年に2%以下に低下になると見られている」「金融緩和の出口戦略に関する議論は現時点では時期尚早」などと発言するとユーロ圏の金融緩和長期化観測からユーロ売りが加速。ユーロ/ドルは1.3107ドルまで下落した
③	12日、伊国債入札が無難に消化され、同国国債利回りが低下するとユーロが上昇。その後、翌日発表予定の中国第1四半期国内総生産(GDP)が前年比9%に達するとの噂を背景にNYダウ平均株価が上昇する中、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン副議長やNY連銀のダドリー総裁が超低金利政策の維持を示唆した事を受けてドル売りが強まるとユーロ/ドルは1.3213ドルまで上昇した。
④	16日、前週末13日にスペインの銀行によるECBからの借入れが3月に過去最高を記録した事が判明し、同国の金融システムへの懸念がくすぶる中、同国国債利回りが上昇するとユーロ/ドルは1.2995ドルの安値を付けた。しかしその後は、米3月小売売上高が前月比+0.8%と予想(+0.3%)を大きく上回る伸びとなった事を好感してNYダウ平均株価が上昇するとユーロ/ドルは1.3147ドルまで反発した。
⑤	20日、独4月IFO景況指数が109.9と予想(109.5)を上回るとユーロ買いが優勢となった。さらにその後、この日行われるG20財務相・中央銀行総裁会議の声明草案として「国際通貨基金(IMF)の融資基盤を4000億ドル以上増加させる」などと伝えられると、欧州債務危機に対する懸念が和らぎユーロ/ドルは1.3224ドルまで上昇した。
⑥	23日、前週末に行われた仏大統領選挙1回目の投票で現職のサルコジ大統領の苦戦が伝えられた事を受けてユーロ売りが優勢となった。さらに独4月PMI製造業が46.3と予想(49.0)を大きく下回った事やオランダのルッテ首相が内閣総辞職を表明した事を受けてユーロ/ドルは1.3104ドルまで下落した。
⑦	27日、格付け会社S&Pがスペインの格付けを「BBB+」に2段階引き下げると、ユーロ/ドルは1.3157ドルまで下落したが、欧州株の堅調推移が支えとなり徐々に反発。その後、米第1四半期GDPが前期比年率+2.2%と予想(+2.5%)を下回ると、ドル売りが優勢となり、ユーロ/ドルは1.3270ドルまで反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

4月のユーロ/ドル相場は1.2995ドル～1.3380ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.8%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。ユーロ/ドル相場は、ここ3ヶ月ほど、おおむね1.30-1.35ドルのレンジ内で推移しており、明確な方向感が出ていない。ユーロ圏には債務問題がくすぶり続けているためユーロ買いが長く続かない半面、米国では景気回復期待と追加緩和観測が入り混じり、ドル買いにもドル売りにも大きく傾きにくい状況が続いている。

5月のユーロ/ドル相場については、ユーロ圏ではフランスとギリシャの政治情勢とスペイン・イタリアの財政問題が焦点であり、米国では4月後半に再浮上した追加緩和観測の行方が焦点となろう。フランスとギリシャでは、脱・緊縮財政を掲げる候補者や政党の優勢が伝えられており、債務危機克服のために1月に合意した財政規律の強化が思惑通りに進まない可能性が出てきた。選挙結果とともに、選挙後の政策運営方針が注目されよう。一方の米国では、4月25日のFOMC後にバーナンキFRB議長が「必要ならば追加の債券買い入れを躊躇しない」と発言した事や米第1四半期GDPが予想を下回った事などから再び追加緩和観測が台頭している。4日の米4月雇用統計や16日のFOMC議事録、さらには金融政策当局者の発言などを手掛かりに、6月に終了する緩和策「ツイストオペレーション」の後継策を探る展開になると見られる。

こうした点から、5月のユーロ/ドル相場は、ユーロ圏の政治・財政問題に対する懸念と米追加緩和観測が同居する形で方向感に乏しい展開が継続すると予想される。(神田)

(予想レンジ:1.2950～1.3550ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

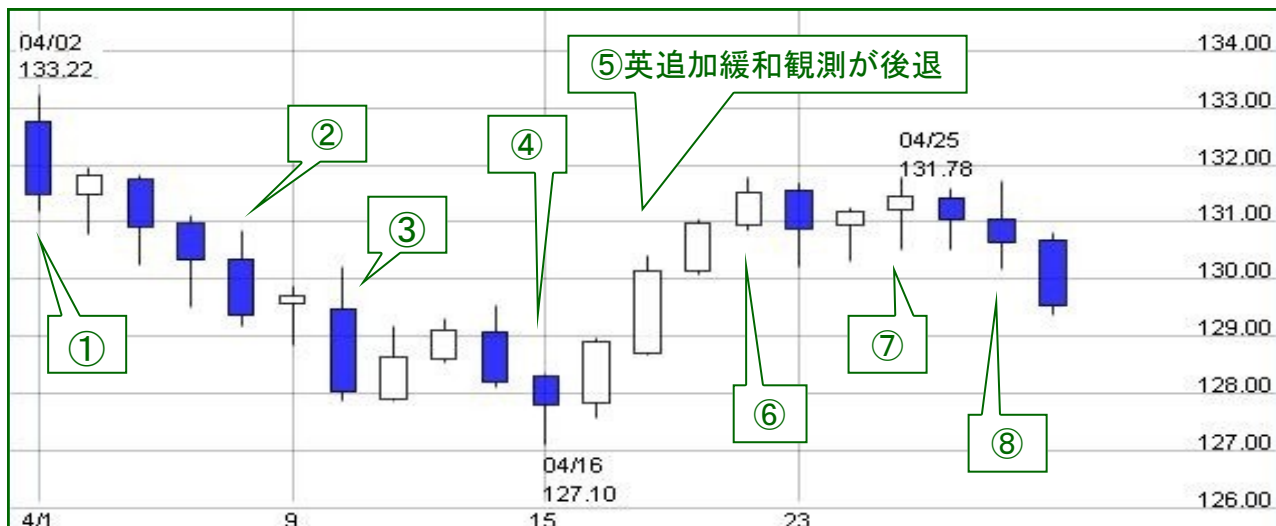
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月米ISM製造業景況指数	5/15(火)	5月独ZEW景況感調査
5/2(水)	4月独雇用統計		4月米小売売上高
	3月ユーロ圏失業率	5/16(水)	4月ユーロ圏消費者物価指数
	4月米ADP全国雇用者数		4月米住宅着工件数
5/3(木)	欧州中銀金融政策発表		4月米鉱工業生産
	4月米ISM非製造業景況指数		FOMC議事録(4月24・25日分)
5/4(金)	3月ユーロ圏小売売上高	5/22(火)	5月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	4月米雇用統計	5/23(水)	4月米新築住宅販売件数
5/8(火)	3月独鉱工業生産	5/24(木)	5月独PMIサービス業・速報
5/11(金)	4月中国消費者物価指数		5月独IFO景況指数
5/14(月)	3月ユーロ圏鉱工業生産・季調済		5月ユーロ圏PMI製造業・速報
5/15(火)	第1四半期独GDP・速報値	5/29(火)	5月米消費者信頼感指数
	第1四半期ユーロ圏GDP・速報値	5/31(木)	第1四半期米GDP・改定値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	132.77円	133.22円	127.10円	129.53円



- ① 2日、日銀短観において、大企業製造業の業況判断が-4、先行きが-3と、ともに市場予想(-1、2)よりも弱い結果だったことを受けてポンド/円は133.22円まで円安が進んだ。しかしその後、欧州株がマイナス圏に値を沈めると失速した。
- ② 6日、米3月雇用統計が市場の期待ほど良好なものでなかったことを受けてNYダウ平均が下落すると、ポンド/円は128円前半まで値を下げた。
- ③ 10日、日銀の追加緩和期待から全般的に円売りが強まると、ポンド/円は130.20円まで上昇した。しかし、実際には日銀が全会一致で政策据え置きを決定すると、ポンド/円は失速。さらに、スペイン国債利回りの低下を背景にリスク回避ムードが強まったこともポンドの重石となった。
- ④ 16日、日本株安を受けてポンドは下落。スペイン債利回りが上昇一服し欧州株が切り返すと反発したが、NY市場で米国債利回りの低下からドル/円が失速すると、127.10円の安値まで下げた。
- ⑤ 18日、タッカーBOE副総裁が「インフレ率は下期も3%を上回った水準を維持する可能性がある」等と発言したこと、英3月雇用統計にて失業率が4.9%(予想:5.0%)、失業保険申請件数が3600人増(同:6000人増)と予想より強い結果になったこと、BOEの金融政策委員会(MPC)議事録にて、追加緩和を主張したメンバーが2人から1人(マイルズ委員のみ)に減ったことが明らかになると、追加金融緩和観測が後退し、ポンドは急騰した。
- ⑥ 20日、ユーロ/円の上昇や英3月小売上高指数が前月比+1.5%と予想(+0.4%)を上回ったことを受けてポンド/円は上昇。G20財務相・中銀総裁会議の声明草案として「国際通貨基金(IMF)の融資財源を4000億ドル以上に増加させることで合意」との報道で米国株が上昇したこともポンド/円を押し上げた。
- ⑦ 25日、英第1四半期国内総生産(GDP)・速報値が前期比-0.2%と予想(+0.1%)に反してマイナス成長となったことを受けてポンド/円は130.50円まで下落。しかし、売り一巡後はショートカバーなどにより急反発し、米連邦公開市場委員会(FOMC)後にドル/円が上昇すると、131.78円まで連れ高した。
- ⑧ 27日、日銀が「資産買入等基金を5兆円増額」と発表すると予想の範囲内とされたドル/円は一旦急落したが、同基金について共通担保資金供給オペを5兆円減額し長期国債の購入を10兆円増額する、という内容だった上、購入対象を「2年以下」から「3年以下」に拡大との点が伝わると、すぐに急騰。この動きに連れて、ポンド/円は130.19円まで急落後、131.73円まで急騰した。ただしその後、白川日銀総裁の「上向きのモメンタムは大事にしたいが毎月緩和していくということではない」との発言を受けてドル/円が上げ幅を縮小すると、ポンド/円も同様に軟化した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

4月のポンド/円相場は127.10円～133.22円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.3%の下落(ポンド安・円高)となった。4月のポンド/円相場は月初、米国の雇用統計が市場予想より弱めだったことや、スペイン国債利回り上昇をきっかけとする同国の資金調達不安などを背景に、全般的にリスク回避志向が強まる中、ジリジリと下落。中旬以降は英国の資産買い入れ枠拡大観測の後退や日銀の金融緩和観測などを背景に反発。米国株が堅調だったこともポンド/円の上昇要因の1つとなった。しかし、日銀が実際に追加緩和を行い、次回以降の追加緩和について不透明感が漂うと、ポンド/円は下げるドル/円に連れて失速した。

今月はず、10日の英金融政策委員会(MPC)でイングランド銀行(BOE)が、5月で終了する資産買い入れ枠の拡大についてどのような結論を示すかが注目される。4月に2人いた買い入れ枠拡大派が1人に減少したが、4月下旬に発表された英GDPがマイナス成長となり、リセッション入りとなったことから、再び追加の拡大を行う可能性は残っていると考えられる。上旬に発表される英主要経済指標などを確認しつつ、実際にはどのような結論が下されるか、考えていく必要があるだろう。また、もし10日のMPCで資産買い入れ枠拡大が決定されなかったとしても、四半期インフレレポートやMPCの議事録から6月の買い入れ枠拡大観測が台頭する可能性もある。こうした買い入れ枠拡大観測はポンドの売り要因として作用するため、各材料をしっかりと確認して行きたい。

もちろん、引き続き欧州の債務問題などを受けたユーロ/円の動きもポンド/円の波乱材料になる。関連報道には気を配る必要があるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 126.00～135.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

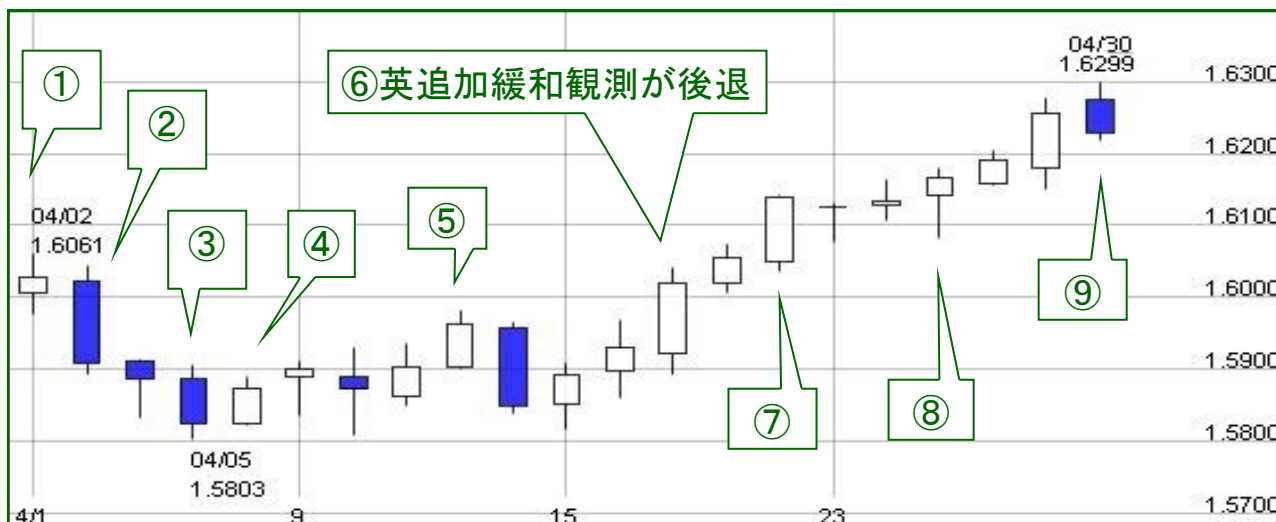
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月英PMI製造業		4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	4月米ISM製造業景況指数	5/15(火)	4月米小売売上高
5/2(水)	4月英PMI建設業	5/16(水)	3月英雇用統計
	4月米ADP全国雇用者数		BOE四半期インフレレポート
5/3(木)	4月英PMIサービス業		4月米住宅着工件数
	欧州中銀金融政策発表	5/17(木)	1-3月期日GDP・一次速報
	4月米ISM非製造業景況指数	5/22(火)	4月英消費者物価指数
5/4(金)	4月米雇用統計	5/23(水)	4月日通関ベース貿易収支
5/10(木)	3月日経常収支		日銀金融政策決定会合(22日～)
	3月英商品貿易収支		BOE議事録
	3月英鉱工業生産	5/24(木)	4月英小売売上高指数
	BOE政策金利発表		第1四半期英GDP・改定値
5/11(金)	4月英生産者物価指数	5/31(木)	5月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.6007ドル	1.6299ドル	1.5803ドル	1.6230ドル



- ① 2日、欧州株高や英3月PMI製造業が52.1と予想(50.7)を上回ったことを受け、1.6061ドルまで上昇した。
- ② 3日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にて、「成長が減速しなければ追加緩和の必要はない」との見方が示されると、市場における追加緩和期待が後退し、ドルが急騰。ポンド/ドルは一時1.59ドルを割りこんだ。なお、英3月PMI建設業は56.7と市場予想(53.4)を上回ったが反応は限られた。
- ③ 5日、スペイン国債利回り上昇を受けてユーロ/ドルが大幅に下げると、ポンド/ドルも連れ安。米新規失業保険申請件数が35.7万件と2008年4月以来の好結果となりドル高が進むと1.5803ドルまで値を下げた。なお、イングランド銀行(BOE)は市場予想通りの金融政策据え置きで、材料視されなかった。
- ④ 6日、米3月雇用統計は失業率は8.2%と予想(8.3%)に反して改善したが、非農業部門雇用者数は12.0万人増と市場予想(20.5万人増)よりも弱い結果となり、ドル安・ポンド高が進行した。
- ⑤ 13日、スペインの銀行が3月にECBから借り入れた総額が過去最高に達したことが発表されると、欧州株が下落。さらに米4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が75.7と、市場予想(76.2)を下回ったことを背景にNYダウ平均が下げ幅を拡大。この中でポンド/ドルは大幅に下落した。
- ⑥ 18日、タッカーBOE副総裁が「インフレ率は下期も3%を上回った水準を維持する可能性がある」等と発言したこと、英3月雇用統計にて失業率が4.9%(予想:5.0%)、失業保険申請件数が3600人増(同:6000人増)と予想より強い結果になったこと、BOEの金融政策委員会(MPC)議事録にて、追加緩和を主張したメンバーが2人から1人(マイルズ委員のみ)に減ったことが明らかになると、追加金融緩和観測が後退し、ポンドは急騰。ユーロ/ドルの上昇も手伝い、1.6041ドルまで値を上げた。
- ⑦ 20日、ユーロ/ドルの上昇や英3月小売売上高指数が前月比+1.5%と予想(+0.4%)を上回ったことを受けてポンド/ドルは上昇。G20財務相・中銀総裁会議の声明草案として「国際通貨基金(IMF)の融資財源を4000億ドル以上に増加させることで合意」との報道で米国株が上昇すると、1.6143ドルまで上昇した。
- ⑧ 25日、英第1四半期GDP・速報値が前期比-0.2%と予想(+0.1%)外のマイナス成長だったことを受けて発表直後のポンドは下落。さらに、FOMCでは景気見通しが上方修正された上、FOMCメンバーによるゼロ金利解除時期見通しでは2016年予想が2人から0人になり、2014年予想が2人増えたことを受けてドル買いが強まり1.6173ドルまで値を下げた。ただ、バーナンキFRB議長の記者会見で追加金融緩和の可能性が改めて示されたことから、すぐにポンド/ドルは下げ幅を圧縮した。
- ⑨ 30日、スペインのリセッション入りで対ユーロでポンドが上昇すると1.6299ドルの高値をつけた。ただ、欧米株が軟調に推移すると、その後は失速した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

4月のポンド/ドル相場は1.5803ドル～1.6299ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ポンド高・ドル安)。この月のポンド/ドルは、月前半、米雇用統計が予想ほど良好な結果にならなかったことを受けてドルを積極的に買う機運が高まらなかった一方、スペインを中心とする欧州債務問題などに対する不安によってユーロ/ドルが軟調だったことが重石となり、大きな方向感が出なかった。ただ、月後半は米企業決算が比較的良好で米国株が堅調だったことや、英国の追加金融緩和観測が後退したことを背景に、ポンド買いが強まった。

英国の資産買い入れ枠は、このままでいくと5月で使い切られることになっているが、ハト派のポーゼンMPC委員が買入枠据え置きに回ったことで、一旦目先の追加緩和観測が後退している。もっとも、英国は2期連続でマイナス成長となり、リセッションに突入しており、このまま金融政策の舵を引き締め方向に切ることにも考えにくい。今月上旬に発表される同国の経済指標に弱めの内容が目立てば、再び資産買い入れ枠拡大観測が浮上しても何ら不思議はない。また、5月の拡大はなくとも、議事録などによって6月の拡大が示唆されれば、ポンドは再び売り優勢に転じることもあり得る。しかしいずれにせよ、ポンド/ドル相場を見る上では、米国の金融政策の方向感についても併せて確認していく必要があるだろう。米国については6月のツイスト・オペ終了に向け次の一手をどうするかという方向感を、現在のところは示していない。今月の米経済指標や米要人発言から、それを窺っていくような展開になるとみる。

また、引き続き欧州債務問題によって揺れるユーロ/ドル相場の動きもポンド/ドルの波乱要因となろう。確認していきたい(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5800～1.6600ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月英PMI製造業	5/15(火)	4月米消費者物価指数
	4月米ISM製造業景況指数		4月米小売売上高
5/2(水)	4月英PMI建設業	5/16(水)	3月英雇用統計
	4月米ADP全国雇用者数		BOE四半期インフレレポート
5/3(木)	4月英PMIサービス業		4月米住宅着工件数
	欧州中銀金融政策発表		FOMC議事録(4月24・25日分)
	4月米ISM非製造業景況指数	5/22(火)	4月英消費者物価指数
5/4(金)	4月米雇用統計	5/23(水)	BOE議事録
5/10(木)	3月英商品貿易収支	5/24(木)	4月英小売売上高指数
	3月英鉱工業生産		第1四半期英GDP・改定値
	BOE政策金利発表	5/29(火)	5月米消費者信頼感指数
5/11(金)	4月英生産者物価指数	5/31(木)	第1四半期米GDP・改定値
	4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		5月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。